

# ガイドランスカウンセラ―の挑戦 5

## ―教育カウンセリングの知見を活かす ―教師の指導をサポートするカウンセラ―

対話のある授業みらい研究所所長

みずかみかずお  
**水上和夫**

ガイドランスカウンセラ―（上級教育カウンセラ―）としてスクールカウンセラ―になって十年になる。これまでは「準ずる資格のカウンセラ―」として臨床心理士等「正規のカウンセラ―」と比べられ、活動が正当に評価されないと感じることがあった。公認心理師の資格を取得したこれからはガイドランスカウンセラ―として治療的な対応だけでなく、教育カウンセリングを活かし、子どもが能力や持ち味を発揮し、自ら問題に積極的に対応していくための相談や援助を広げていきたい。

### 1 チーム学校を支える

「児童生徒の教育相談の充実について（通知）文部科学省、平成二九年二月」では、(1)未然防止、早期発見及び支援・対応等への体制構築、(2)学校内の関係者がチームとして取り組み、関係機関と連携した体制づくり等を

求めている。とくに不登校、いじめや暴力行為等問題行動、虐待等については事後の個別対応だけでなく、未然防止から早期支援、改善・回復、再発防止までの一貫した支援体制づくりを強調している。

この通知は個別対応中心のスクールカウンセラ―の在り方の見直しを求めている。ガイドランスカウンセラ―は教室での集団指導や学校組織でのチーム支援、教師へのコンサルテーション等の予防・開発的な対応を得意とする。チーム学校における教師の役割を広げるために教育カウンセリングの知見を活かした対応への期待は大きい。ここでは学級や授業づくりによる予防・開発的取り組みを紹介し、指導サポートの在り方を考える。

### 2 いじめ防止ワークシ―の取り組み

中学一年特別活動、いじめ防止ワークシ―

「思いやりと励ましの声かけができるようになろう！」（五〇分）では、最初に自分がしていることが人を傷つけるいじめになっていないかを振り返った。その後、「〇〇先生、いじめウオッチング」「□□さん（君）を励ます言葉」等の構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを取り入れたエクササイズを行った。

いじめウオッチングでは、質問に答える形で担任が自分自身の中学一年時のいじめへの関わりを語った。いじめの様子や関わり方、思いを生徒は目を輝かせて聞き入っていた。教師の自己開示により、いじめに向き合おうという意識が高まり、励ます言葉のエクササイズに意欲的に取り組んだ。

生徒は授業後のアンケートに「いつの間にか相手を傷つけていたことに気づいた」「積極的に励ましの言葉を使いたい」等の感想を述べていた。担任は「言葉遣いに気を配り、声をかけ続けることがいじめを防ぐことにつながる」と振り返っていた。チームティーチングで担任といじめ予防の授業に取り組んだことが、温かい言葉遣いやいじめを許さない人間関係を育むことにつながっていった。

### 3 研修「よる学級づくり」のサポート

学級づくりを研修によってサポートするた

めに、自分がガイダンスカウンセラーであり  
研修会の講師ができることを申し出た。その  
後、学級開きやQ・Uを活用した学級づくり  
等の研修会、崩壊した学級のコンサルテーシ  
ョンを依頼されるようになった。

学級づくりスタートダッシュ研修会では、  
黄金の三日間、ルール確立の十日間、ルール  
定着の一月の三段階に分け、各段階の作戦  
シートを用いて計画を立てた。教師同士で取  
り組み方を話し合い、各自が工夫しながら学  
級開きの取り組みを進めた。

黄金の三日間では子どもとの出会いを大切  
にして、明るく楽しい学級の雰囲気を出し  
た。①「新しい学級、担任は楽しい」と期待  
がふくらむ活動を用意する、②出会いに心を  
込め、ふれ合いをつくり出す、③学級をみん  
なの居場所にするを話し合う等の計画を  
立てて活動に取り組んだ。スタートから子ど  
もや学級全体を認め、ほめる言葉をかけるこ  
とで、新しい学級は居心地がよいという意識  
が高まった。この後、ルールの定着や友だち  
と関わる活動に取り組んだ。

スクールカウンセラーが学級づくりの専門  
家であるという認識が定着すると、支援会議  
で学級づくりによるサポートに関する意見を  
求められることが増えていった。

#### 4 授業を援助資源にする

「カウンセラーが授業づくりに口を出せるの？」  
「問題行動と授業が関係あるの？」と思う方  
がいるかもしれない。しかし学校生活の大部  
分は授業であり、学校生活は授業生活であ  
る。子どもは授業で友だちとふれ合い、仲間  
から認められることで成長する。この授業の  
人間関係を問題行動の未然防止や事後対応の  
方法として捉え、対応できるようにしたい。

**対話のある授業**は子どもと教師、子ども同  
士のかかわり合いを通して学び合う授業であ  
る。授業でのふれ合いとつながりが、学ぶ意  
欲や自己肯定感、協調性、思いやりを高める。  
予防・開発的な対応のために人間関係を活か  
した授業のサポート力を身に付けたい。

発達障害傾向の子どもがコミュニケーション  
のトラブルを起こしている場合、これまで  
は個別指導を充実させる対応が多かった。こ  
れからは授業の構成や内容、実施方法などの  
枠組みを工夫して障害があっても安心して参  
加できるようにする。例えば認め合う場面  
では、「□□さんの○○○がよかったです」と  
話し方のパターンを示す。安心して友だちと  
関わるができる授業を進めることで子ども  
もは自分のよさに気付き、問題を乗り越えて  
いくことができるのである。

このように授業の人間関係を活かす視点を  
もつことで問題行動の対応の幅が広がる。ガ  
イダンスカウンセラーは教育になじみのある  
カウンセラーである。学校生活の中心である  
授業の進め方をサポートし、授業を援助資源  
として活用していくようにしたい。

#### 5 教師や子どもを勇気づけるカウンセラー

新学習指導要領の全面实施、コロナ感染症  
対策、一人一台のICT教育への対応等、学  
校現場は多忙をきわめている。余裕がない中  
では、学級や授業で集団対応や個別支援の充  
実に取り組むことがポイントとなる。スクー  
ルカウンセラーは、集団づくりや人間関係づ  
くりによる問題行動の予防や援助をアドバイ  
スし、教師の指導をサポートしたい。

予防・開発的な対応に教育カウンセリング  
の知見を活かすことがスクールカウンセリン  
グの向上につながっていく。これからもガイ  
ダンスカウンセラーとしてのアイデンティテ  
ィーを大切にし、子どもや教師、家族を勇気  
づける取り組みを続けていきたい。

#### 引用・参考文献

- (1) 水上和夫著『10分でできる なかよしスキル  
タイム35』図書文化、二〇一二年。
- (2) 大友秀人・水上和夫著『エンカウンターに学ぶ  
グループ学習10のスキル』図書文化、二〇一九年。